

6-5 学修支援ボランティア活動

学校現場体験活動（学習支援ボランティア活動等）は盛んであり、離島も含めた北部 12 市町村教育委員会と連携し、下表のような長期・中期・短期の学修支援活動が展開されています。

（１）学校実務体験プログラム

これから教職を目指す学生には、学校現場における多様な課題に対応する新たな学びが求められています。2022年度から学校現場の協力の下、北部教育研修センターとの共催により、学校実務体験プログラムを開始しました。内容は、教育・養護実習前に学校現場を知り教職員や児童生徒と交流を図り、実践力向上を目的とした学校実務体験のボランティア活動です。今年度は大学の教職課程カリキュラム「教育・養護実習」の授業外の「学校実務体験プログラム」として、学校支援・保健室支援ボランティア活動を実施しています。

共 催 名桜大学教員養成支援センター、北部教育研修センター

対象学生、実施期間、実施校

- ① 前期：今年度の教育・養護実習生 5月～実習前の期間に 20～30 時間程度
- ② 後期：次年度の教育・養護実習生 10月～12月の期間に 20～30 時間程度
- ③ ①②を基本とするが、学校現場のニーズと学生の活動時間を調整して進める。
- ④ 日程及び活動内容等については、指導教員と学生双方が負担にならないように 20～30 時間程度の範囲で双方合意の上で実施する。
- ⑤ 基本的には、国頭地区内の実習校に依頼するが、地区外や県外での実習予定学生は、学校支援ボランティア（指導アシスタント）として地区内の学校に依頼する。

期待できる効果

教育・養護実習を行う学生が実習前に、指導教員の授業観察や授業の補助（指導アシスタント）を行い、実習校の指導教員や生徒と良好な関係を築き、円滑な教育実習が可能となる。

実施体制及び事前指導

- ① 教員養成支援センターと教員養成講座担当が連携し、学校及び指導教員へ依頼する。
- ② 学生・大学・派遣校との連携の下、実施を希望する学校と学生の双方がマッチングできた場合に実施する。
- ③ 教員養成支援センター・教員養成講座担当・大学の実習教官への共通理解と連携を図る。
- ④ 学校長・指導教員への事前説明を行い、賛同を得る。
- ⑤ 学生には十分な事前指導を行い、教職に対する使命や採用試験の現役合格を目指す。

主な活動内容

教科の学習支援、通級児童生徒の学習支援等、養護教諭の補助、保健室や教室の掲示物作成等その他、学校現場のニーズと学生の活動時間を調整して可能な範囲で実施することとする。

(2) 地域貢献型学修支援ボランティア事業

表 主な学習支援ボランティア活動

期 間	ボランティア活動内容
長 期	名護市近郊での学習支援，学習支援教室ぴゅあ・あしびなー等
中 期	恩納村未来塾，金武町，宜野座村漢那区・松田区・等での高校受験生指導
短 期	学校保健室支援（身体測的・健康診断・歯科検査等の保健室支援ボランティア） 水納島・伊是名島・伊平屋島，国頭村での宿泊型学習支援等



年間を通して、ボランティア活動の派遣依頼があります。条件は、有償、無償、交通費のみ等、自治体によって様々です。可能な範囲で対応いたします。

- 上記以外に、国際学群の3年次学生には夏期休業中に沖縄県北部を中心とした小・中・高等学校等で3週間の学校現場体験活動を行う「現地実習(教育支援コース)」が4単位科目として提供されています。



● ボランティアを希望する学生の教職 Teams の活用

ボランティア活動は、自治体等の依頼を受けて教職 Teams で募集を行います。申込みに関する問合せは教員養成支援センター窓口で行います。

活動の際は、「学習支援ボランティア記録簿」をセンターで受取り、記録を取り、提出を求められた際は提出できるように準備することになっています。

